



# つながる男性相談 第6回全国男性相談研修会

「第6回全国男性相談研修会」を2月27日、クレオ大阪中央で開催しました。オンラインを含め、全国19都府県の男性相談担当者など63人が参加。事例の共有や情報交換を通じて、連携を深めました。「つながる男性相談」をテーマにしたシンポジウムでは、社会環境の変化の中で葛藤を抱える男性の支援について意見が交わされました。



## 鎧を脱ぎ「しんどさ」受け止めよう

福島 充人(一般社団法人日本男性相談フォーラム代表理事)

違った形として他者に向かってしまう危険性があります。

ヒントとなるのが「ネガティブ・ケイパビリティ」。曖昧さや葛藤をそのまま抱えよう、という考えです。「こうあるべき」は、自分自身だけでなく、他者も縛ってしまいます。人生ままならないのが普通。「できる状況」をめざせばめざすほど、現状が苦しく感じられてしまいます。「しんどい」という気持ちをまずは受け止められる社会になればいいですね。

男性相談においても、不寛容・厳罰主義はマイナスしか生みません。たとえば、妻にきつく当たってしまった時、「なぜそんなことをした」と指導的な対応をすると、そ

の場では反省するかもしれない。でも、反省する姿を見せることで「相談に行ったらこういう風に言えよ」とか「狡猾な加害者を生み出す可能性も。せっかく相談したのに自分自身のしんどさを受け入れられない、何なら責められてしまう」と、相談や支援から遠ざかってしまいます。誰かに頼ること、それが支援の第一歩。「しんどい時こそ自分を大切にしよう」と呼びかけたいです。男らしさの鎧を脱ぎ、傷ついた自分を癒したり、これまでの考え方をリフレーミング(違う視点で捉え、ポジティブに解釈する)したり、誰かとつながれたり…。これこそが今の男性相談で求められることではないでしょうか。



## 男性に募る不安 支援や課題分析を

植田 晃博(笹川平和財団アジア・イスラム事業グループ研究員)

門の拡大で、女性のケア能力や対人関係能力の需要が増えました。

男女の収入格差の深刻さに変わりはないものの、男性が大黒柱として一家を支える状況ではなくなってきています。

しかし、男性の収入が伸び悩み、共働き世帯が増えても、男性が稼ぎ主でなければならないという意識はあまり変わっていません。稼ぎ主として家事や育児が免除される状況でもなくなっています。男性の不安や不満がどこに向かうのか。その一つの結果が、コロナ下でのDV相談件数の増加かもしれません。

女性ゲームの騒動も、男性への差別が許されなくなったこと自体は良い傾向ですが、そう単純な問題ではなさそうです。男性の不満が溜まってきた表れで、ミソジニー(女性嫌悪)問題とも関連するのでは

はないでしょうか。ジェンダー平等をめざす上で、相対的に優位な立場にあった男性の地位が低下していくのはある程度やむを得ないことでしょう。しかし、その過程で不満を募らせる男性を放置してしまうと、社会そのものが不安定化しかねません。

そこで、男性政策を適切に進める必要がありますが、男性相談はその要。今後はより包括的な取り組みに期待します。

たとえばDVの場合、加害者更生プログラムなど総合的な窓口としての機能を持つこと。また、男性の悩みを把握・分析し、男性政策を提言していくこと。日本男性相談フォーラムと共同運営するポータルサイト「オトココロネット」では、そうした機能を集約し、男性に気軽に利用してもらえる仕組みを作っていくたいです。

## 第6回全国男性相談研



高橋 俊也(クレオ大阪中央館長)

料理や育児など日常的なテーマで男性向け事業を実施し、男性同士でのつながりを作ってきました。男性相談では、メール相談も検討したいです。文字情報は、受け取り方によって誤解を生む怖さもある一方、落ち込んだ時に励ましの言葉や有益な情報を読み返してもらえます。時代に合ったつながりの形を模索していきます。



濱田 智崇(京都橋大学健康科学部心理学科准教授)

相談をはじめ、男性向けの事業になかなか人が集まりづらいというのが全国共通の課題。とはいえ、地道に続けることでしか定着していかないと。指定管理業務などの場合、実績を求められるのは仕方ないですが、お守り替わりとして男性相談の存在は欠かせません。

# Work support PLUS

## ワークサポートプラス

従業員満足を高め、組織を活性化するために必要なサービスを 必要な分だけ



### 組織・職場の課題

- ☑ハラスメント防止
- ☑コンプライアンス
- ☑人材育成
- ☑各種両立支援
- ☑ダイバーシティ推進

### 働く人の課題

- ☑子育てとの両立
- ☑介護との両立
- ☑人間関係
- ☑働き方・キャリア

## Work support PLUS

### 社内研修 相談

ハラスメント社外相談窓口  
女性活躍推進プロジェクト支援等

### 組織活性

### 人財活性

### 働きがい

### ダイバーシティ経営

大阪市男女いきいき財団は、1993年の設立以来、男女共同参画に精通する専門家として、学校や企業、病院といった組織の風土改善やダイバーシティ推進活動を支援してきました。

ワークサポートプラスは、従業員の皆さまが健康で安心して働ける環境を整備することで、従業員満足(ES)を高め、離職防止や生産性向上につなげる包括的なサービスです。

下記のサービスをベースに、それぞれの企業のご要望に応じたプランをオーダーメイドで提供します。

料金はプラン内容によって異なります。まずはお気軽にお問合せください。

### 》》》 オーダーメイド社内研修

ご希望のテーマや研修対象などに応じてオーダーメイドの研修プログラム企画のご提案から講師手配、研修当日までトータルコーディネート。組織が抱える課題解決にむけたテーマをご提案します。

### 》》》 ライフサポート相談

「部署の人間関係」といった職場の悩みから「育児・介護と仕事の両立」「キャリア開発・モチベーション」などの家庭や働き方の不安や悩みまで、専門相談員がサポートします。従業員の皆さまが安心して相談できる環境を整えます。



## 大阪市男女いきいき財団 NEWS

発行 大阪市男女いきいき財団 正式名称 一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会  
〒543-0002 大阪市天王寺区上汐5-6-25 クレオ大阪中央内  
TEL: 06-7656-9040 FAX: 06-7656-9045 https://www.danjo.osaka.jp/

# 大阪市男女いきいき財団 NEWS

vol.44  
2022.3

ニュース



Withコロナの生活も3年目。人との出会いが減り、新たな価値観に触れる機会は減っていませんか？  
今だからこそ、集い、語り合う。そこでしか生まれないものが、きっとあります。

Youth

## いきいき財団インターンシップ生 若者の本音トーク！

- #女性のエンパワメント
- #世代間ギャップ解消
- #学び直し
- #地域の居場所づくり
- #SNSで多様な価値観に触れる



Men



## つながる男性相談 第6回全国男性相談研修会

- #男らしさの鎧
- #ネガティブ・ケイパビリティとは
- #不安に寄り添う

## What's 大阪市男女いきいき財団？

ダイバーシティ(多様性)の時代。私たちがめざすのは、地域の皆さん、企業、学校、行政機関などと連携し、誰もがイキイキ暮らせる社会を創ることです。大阪市立男女共同参画センター(クレオ大阪)5館をはじめとする公共施設の管理・運営や、悩み相談、研修・啓発事業などを通じて、すてきな未来づくりのお手伝いをしています。

# いきいき財団インターンシップ生 若者の本音トーク!

社会の価値観のアップデートを率いる若者たち。  
さまざまな世代や性別の人が協力し合える社会って? これからのキャリア、家族の形って?  
財団インターンシップ生として活動した20代の下津さん、30代の篠原さんに、本音で語り合ってもらいました。



— おふたりがインターンシップをしようと思ったきっかけを教えてください。

**下津** 大学を卒業してすぐに、インターンシップに参加しました。納得のいく就職先が見つからず、1年間いろんな経験をしながら将来について考えようと思ったからです。『赤毛のアン』で描かれる女性問題について卒論を書くなど、元々関心も高く。

**篠原** 私は九州大学で女性のキャリア形成について学んでいます。でも、コロナ下でずっとオンライン講義が続き、物足りなさも感じていて。今住んでいる大阪で何かしたいと思って応募しました。

— インターンシップ期間中、思い出深いことは?

**下津** 「チャレンジカフェ(※)」のPR動画作成です。緊急事態宣言でお店を休業せざるをえない中でも、何か今後につながるコンテンツを発信しようと、おやつレシピの撮影や編集を担当しました。カフェは、女性がステップアップする場所として活用しているので、少しでもその役に立てていたらいいですね。

クレオ大阪では、オンラインのセミナーと並行して、対面でのイベントもたくさん実施していますよね。クレオ大阪中央フェスタでは「頑張ってるね」と声をかけてくださる方もいて、地域の方と触れ合うことができました。画面越しの交流ばかりのご時世だからこそ、貴重な時間でした。

## 「こうあるべき」から解放 人生の選択肢が広がった

下津 美琴 ●●

1998年生まれ。大阪市出身。武庫川女子大学文学部で英語文化を専攻。卒業後の2021年5月から財団インターンシップ生に。趣味の画像・動画編集のスキルを生かして、チャレンジカフェやクレオ大阪中央フェスタの動画制作などを担当。



※チャレンジカフェ  
カフェ開業をめぐる女性が期間限定でオーナーとなり、調理や接客、経営などのノウハウを実践的に学ぶ場。



チャレンジカフェ  
レシピ動画

クレオ大阪中央フェスタ  
20周年記念動画



里親セミナー&相談会  
地域で愛情を持って子どもたちを育てる取り組みについて学びました!

## ジェンダーの課題解決 生涯勉強し続けたい

篠原 遼子 ●●

1989年生まれ。北九州市出身。大学では英語教育を専攻。卒業後に和菓子店に就職。結婚を機に退職し、夫の転勤でカンボジアへ。日本へ帰国後、2020年から九州大学文学部で家族社会学を専攻。2021年11月から財団インターンシップ生として、イベント・セミナーの運営サポートを担当。



ご協力ありがとうございました  
Pray for Ukraine



◀映画上映会。ウクライナ支援の募金の協力を呼びかけました。  
▲みんな仲間だ! フェスティバル子どもの人権について意見発表。みんなで「世界人権宣言」を朗読♪

**篠原** いくつか男女共同参画セミナーの運営をお手伝いしました。なかでも心動かされたのが、「神戸アジア食堂バルSALA」代表・黒田尚子さんのセミナー。海外出身の女性がいきいきと仕事して自信をつける姿に、黒田さん自身もエンパワメントされたそうなんです。支援する側、される側のようなパターンリズミ的な関係ではなく、フラットな関係が築けているのが理想的ですよ。

ほかにもさまざまなセミナーや講座を見学しましたが、女性たちがここに集い、励まし合いながら、新しいことに取り組む姿勢に感化されました。

**下津** 人生の選択肢が広がったような気がします。日本では、皆が一緒のタイミングで卒業・就職するのが主流。私はそれができなくて、周りとは違うんだと落ち込んでいたんです。でも、ここに来たら、趣味や特技を仕事に活かしたり、専業主婦で子育て中の方が何かを学んだり…。一つの道に縛られていない人たちがたくさんいて、その姿に勇気づけられました。「人生はこうあるべき」という考えから解放されました。インターンシップを始めてから意欲的になり、以前から関心のあった防災団体での活動にも取り組むことができました。

— 篠原さんも今の進路に至るまでに、悩んだことはあったんですか?

**篠原** そうですね。私は福岡出身で、地元の女



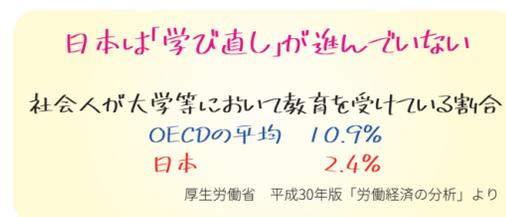
子大を卒業後、7年間、和菓子販売の仕事をしていました。結婚して夫のカンボジア赴任が決まり、仕事を辞めてついて行ったんです。でも、経済的に頼らなければならぬ心苦しさや、仕事の空白が今後どうなるのか、不安が募っていった…。そんな時、現地の図書館で何気なく読んだ社会学の本から、今私が体験していることは、多くの女性が経験してきたことの一つなんだと気付いたんです。

社会学なら、当事者として生涯関心を持って勉強し続けられる。そう思って、2020年4月に3年次編入で今の大学へ進みました。夫の実家がある大阪に住み、オンラインで講義を受けています。今は、主に介護関係のNPOを立ち上げた女性リーダーについて調査しています。

— 学び直しを実践できる人はまだ少ないですよ。

**篠原** 現状では、時間や経済的理由からハードルが高いと感じます。一度就職をしてから、「新たに学びたい」「専門性を身に付けたい」と考える人は結構いるんじゃないかと思います。国や企業の補助制度がもっと充実していくといいですね。私は奨学金を借りているのですが、学費も高いと感じます。

**下津** 確かに。若い世代や女性の賃金が十分ではないという課題も関係しそうです。何か購入する時も、地球環境や働く人の労働条件に配慮した企業の商品を選びたいと思うのに、正直、値段が高くて買えないことも…。サステナブル志向の若者は増えているのですが。



— ジェンダーについて考えるきっかけとなる本やコンテンツはありますか?

**下津** 元アメリカ大統領夫人ミシェル・オバマの自伝『マイ・ストーリー』です。困難がある中でも「自分は自分」と貫く姿勢がかっこよくて、こうありがたい女性像です。『イラストで学ぶジェンダーのはなし』も、多様なセクシュアリティに配慮した言葉の選び方が学べて参考になります。

**篠原** 『女性の世界地図』がおすすめです。「仕事」「政治」「出産」「殺人」「難民」など、さまざまなテーマについて、女性の現状をデータや数値で見ることができます。日本の立ち位置を客観的に知り、驚きと再認識を与えてくれる本です。あと、最近はSNSなどで性自認を公表し、

2人の Think Gender おすすめコンテンツ

📖『マイ・ストーリー』  
ミシェル・オバマ/著  
長尾 莉紗・栗田さとみ/訳  
集英社・2019年

📖『イラストで学ぶジェンダーのはなし』  
アイリス・ゴットリーブ/イラスト・文  
野中モモ/訳  
フィルムアート社・2021年

📖『女性の世界地図』  
ジョニー・シーガー/著  
中澤 高志・大城 直樹・荒又 美陽  
中川 秀一・三浦 尚子/訳  
明石書店・2020年

📺『ふたりばば』  
日本出身のみつつんさんと  
スウェーデン出身のリカさんが発信する  
YouTubeチャンネル(毎週金曜日更新)

— 財団やクレオ大阪について、若い世代にもっと知ってほしいと思っています。

**篠原** クレオ大阪中央に来て思うのが、居場所づくりって大切だなということ。交流サロンでは、いつも中高生たちが自習をしたり、友達とお喋りしたり、心地よく過ごしていますよね。でも、その中でも、悩みがある子や、もっと交流を広げたいと考えている子もいるはず…。セミナーなどの参加者の年齢層は高い印象ですが、思い切って10代限定の交流会を開いてみるのはどうでしょう。そこから相談事業やセミナー参加につながるかも。

**下津** 面白そう! 今も実施していると思いますが、学校での出前授業ももっと増えるといいですよ。来てもらうのを待つというより、こちらからどんどんアプローチして欲しい。若者の中には「男女共同参画センター」という存在に馴染みがない人が多いと思うので、まずは親しみを覚えてもらうことから。

困ったこと、傷ついたことなど実体験を拡散するセクシャルマイノリティの方も増えてますよね。性別適合手術の費用など細かい部分まで発信する人もいます。私は、スウェーデンで暮らす男性同士のカップル「ふたりばば」のYouTubeをよく見えています。

**下津** 知っています! 「みつつん」と「リカ」さんですよ。

**篠原** そうそう。代理母出産で生まれた「息子くん」がいて。SNSをよく見る世代は、いろんな性、いろんな家族の形について自然と触れていますよね。

**下津** SNSや動画などのツールをきっかけにすれば、家族ともジェンダーや社会課題について話し合えるんじゃないかな。そうすれば世代による考え方のギャップも、埋まっていきそう。

— インターン期間を終え、4月からの進路について教えてください。

**下津** 大阪府内の男女共同参画センターで働くことになりました。女性の地域防災への参加につながるような啓発イベントをやりたいです。インターンシップを通じて、こんな風に自分も誰かの役に立てる仕事がしたい! という思いが強くなりました。

**篠原** たくさんの人に出会うことで、視野が広がり、いろんな活躍の仕方があるとヒントを得られました。大学院に進んで勉強を続け、いずれは女性支援関連の仕事に就きたいです。

